合同防災キャンプ2017 実施内容

―事後研修の開催―

平成29年9月24日(日)　東京都教職員研修センター 111 研修室	
9:00	受付開始・開場
9:30	挨拶　合同防災キャンプ 2017 実行委員会事務局 東京都教育庁 指導部 主任指導主事　藤江 敏郎
9:40	防災士養成講座 [11]「身近でできる防災対策」 危機管理アドバイザー、危機管理教育研究所 代表　国崎 信江氏
10:50	防災士養成講座 [12]「防災士の役割」 防災士研修センター 代表取締役　甘中 繁雄氏
11:50	昼食（宿泊研修での復興支援ボランティア受け入れ先の皆さんからのビデオメッセージ）
12:50	研修全体の振り返り 東京都教育庁 指導部 指導企画課 統括指導主事　大村 賢治
14:00	防災士試験対策講座
14:30	自主学習
15:00 ～ 16:00	防災士資格取得試験

事後研修の開催

防災士養成講座　[11]「身近でできる防災対策」

講師／危機管理アドバイザー、危機管理教育研究所 代表　国崎　信江氏

事後研修では、事務局からの挨拶の後、二つの防災士養成講座が行われました。最初の講座では、国崎氏より、事前研修と宿泊研修を通した学びの成果を実際の行動につなげる知識等を、教えていただきました。

「ハザードマップでは安全とされていても、自宅の耐震性が低い場合はどうなるか。」、「戸建とマンションの防災対策は同じで良いのか。」、「揺れたら机の下で必ずしも良いのか。」など、防災対策において陥りがちな過ちを浮き彫りにする問い掛けと、様々な実験映像によりその回答を頂きました。

また、大地震が発生した際に学校がどのようになるかについて、教室、職員室、音楽室、昇降口、体育館、校庭など様々な場所における被害の可能性を、家具の転倒防止がされていない職員室を想定した振動実験の映像や東日本大震災の被害写真などで紹介していただきました。そして、校舎の耐震性に頼ることなく、自分が今いる場所でどう行動すればよいかを常に考えること、「こうすれば安全」という固定観念にとらわれることなく一歩先の安全性を確認してから行動することの重要性を強調されました。

このほか、効果的な家具の配置や固定の方法、命を最優先にした身の守り方などを具体的に教えていただき、参加者にとって、「知っていることで守れる命がある。知らないことで失われる命がある。」ことを、改めて認識する時間となりました。

防災士養成講座　[12]「防災士の役割」

講師／防災士研修センター 代表取締役　甘中 繁雄氏

最後の防災士養成講座となる二講座目は、防災士の認証登録を行っている NPO 法人日本防災士機構の理事でもある甘中氏より、これから試験を受ける防災士の役割と重要性を認識し、防災士としての日頃からの心掛けにつながる講義をしていただきました。

講義は、甘中氏が出す三択問題に答えるクイズ形式で始まりました。「日本の国土面積は、世界の面積の１%に満たないが、マグニチュード６以上の地震が日本で発生している割合は？」など、災害大国である日本の地理的特徴を様々な角度から質問された参加者は、日本のどこにいても災害は必ず起こるものであり、絶対に安全な場所などないことを再確認しました。

そして、そのような日本における災害対応の原則や関連する法律、また、これらの法律が過去の災害を踏まえてどう変わってきたのかを学びました。

最後に、「阪神淡路大震災等の教訓から、将来起こりうる災害に備えて、事前の防災対策と災害発生後の応急対応の双方で全国民的な強化が必要であること、そのために、民間の防災リーダーを養成することが急務であるという考えから防災士制度が発足した。」という甘中氏のお話を聞き、参加者は、改めて自分たちが防災士となる意味を理解し、防災士資格取得試験に向けて気持ちを高めていきました。

研修全体の振り返り

研修全体の振り返りでは、宿泊研修のワークシートや、宿泊研修の二日目に発表した模造紙で宿泊研修を振り返るとともに、事前研修や事後研修の内容も含めて、「①合同防災キャンプを通して学んだこと」、「②合同防災キャンプを通して学んだことや経験したことを、これからどのように活用していくか」について、班ごとに話し合い、発表を行いました。

「いざという時の行動力が大事だということを学んだ。誰かがやってくれると待たず、自分から行動する意識を大切にしていきたい。」

「金比羅丸の船長さんの話を聞き、何となく地震に遭っても自分は助かると思っていた今までの甘い考えが改められました。私たちが三日間で被災地の方から学んできたことを、ここで終わりにするのではなく、周囲の人にも、しっかりと伝えていきたい。」

「現地に行き、テレビを見ているだけでは分からないことを直接五感で感じることができた。宮城県の中でも仙台と南三陸では、被害や復興状況が異なることを体感できた。これからは、学校の避難訓練に率先して真剣に参加し、学んだことをその場などで伝えていきたい。」

「日頃の防災訓練がいかに大切かを学んだことで、訓練をやっていないといざという時に行動できないという危機感を持つようになった。また、防災訓練をする際は、形式的なものでなく実践的なものにしていきたい。」

主な発表内容は上記のとおりですが、この他にも活発に意見が出されていました。

防災士資格取得試験

参加者は、７月に開催された事前学習、８月の宿泊研修及び９月の事後研修を通して受講した１２の防災士養成講座、そして防災士教本と履修確認レポート及び試験対策ブックによる自主学習、並びに直前に行われた防災士研修センターの曽根 太一研修企画部長による「直前対策」を経て、万全の態勢で防災士資格取得試験に臨みました。

特定非営利活動法人日本防災士機構の試験監の合図で試験が開始され、試験を終えた参加者は満足な表情を浮かべていました。

なお、防災士資格取得試験を受けた９８名全員（生徒８４名、教員１４名）が、無事に難関を突破しました。

合同防災キャンプ 2017 実施内容
―都立高校防災サミット及び合同防災キャンプ報告会―

平成29年12月23日(土・祝)　御茶ノ水ソラシティ　カンファレンスセンター	
12：30	合同防災キャンプ参加者の防災士認定状・防災士証交付、記念撮影
13：00	受付開始・開場
13：30	開会式ー東京都教育委員会挨拶（教育監　出張 吉訓）
13：40	第Ⅰ部　活動報告 ・発表①「防災活動支援隊報告」都立大崎高等学校 ・発表②「合同防災キャンプ報告」都立山崎高等学校 ・発表③「災害ボランティア派遣報告」都立農芸高等学校
14：25	スライド上映（合同防災キャンプの様子）
14：35	防災士認証状授与式
14：40	特定非営利活動法人　日本防災士機構　鈴木 正明 理事長　挨拶
14：45	休憩・教員移動
15：00	第Ⅱ部　グループ協議 ・[生徒]「避難所運営について」 ・[教員]「各高校の防災教育の取組について」
16：05	各課題・代表班によるグループ協議内容の発表
16：25	閉会式ー東京都教育委員会挨拶（指導部長　増渕 達夫）

第Ⅰ部　「活動報告」と防災士認証状授与式

第Ⅰ部では、全都立高等学校から集まった生徒と教員に対し、三校から活動報告が行われました。最初に大崎高等学校の防災活動支援隊より、地域と連携した防災活動の報告と AED 操作の実演が行われた後、合同防災キャンプの活動について、参加者を代表して山崎高等学校の小池 幹大さんと佐藤 太一さんから報告が行われました。

まず、ホテル観洋から撮影した志津川湾から昇る朝日の写真が映し出され、「震災当時は海全体が浮き上がり、このすばらしい風景が激変したことを考えると、自然が持つ力の大きさを感じる。」と始まり、合同防災キャンプの活動概要とそこから学んだことを全校の生徒に発表しました。

学んだこととして、被災地で聞いた最も印象に残る言葉「二度失った」を紹介。「被災地では、一度目は津波で、そして二度目は復興で、故郷の風景が大きく変わり失われたと言います。復興が進むのは良いことだが、お話しいただいた方の気持ちを思うと複雑な気持ちになりました。」と、被災地に行ったからこそ分かった視点を伝えました。

そして、まとめとして「東日本大震災を風化させず災害に関する意識、心構えを同じ高校生や被災地の方々と共有していきたいです。」と、他校の生徒たちに意識、心構えの共有を呼び掛けていました。

最後の活動報告は、昨年度の合同防災キャンプに参加した農芸高等学校の生徒により、防災士を取得した次のステップとして今年度に参加した福島県への災害ボランティア派遣（次ページを参照）について発表が行われました。

活動報告の後、防災士認証状の授与式が行われ、９８名の合格者を代表し、八丈高等学校の沖山 龍さんと練馬工業高等学校の菅 恵理先生が、特定非営利活動法人日本防災士機構 理事長の鈴木 正明氏より認証状を受け取りました。

（代表生徒の一言コメント）
防災士となったみんなが、それぞれ学んだことを生かし、これから活動していけたら良いなと思います。
（八丈高等学校　沖山　龍さん）

第Ⅱ部　「避難所運営について」（グループ協議）

第Ⅱ部では、生徒は、６人ずつ４７グループに分かれ、「避難所運営について」をテーマに４コマ漫画教材（２４ページを参照）を使ったグループ協議を、教員は「各学校の防災教育の取組について」をテーマに意見交換を、それぞれ行いました。

生徒のグループ協議では、各グループに配置された合同防災キャンプの参加者が、司会進行役を担い、合同防災キャンプの経験をもとに協議をリードしていました。協議後、グループ内でまとめた４コマ漫画の最後のコマのセリフ及び高校生としてできることについて６グループが発表を行いました。

防災サミットのアンケートで、合同防災キャンプの活動報告やグループ協議に対する感想として、「実際に現地に足を運んだからこそ感じることができたことや、現地の方の声などがとてもよく伝わった。」、「キャンプでの体験を通して得た気付きや覚悟に身の引き締まる思いがした。共有できる場があると良いと思う。」、「他者の意見を聞くことにより、更に防災に対する意識が変わった。」、「どの班の発表も、自分の行動の参考になるものばかりだった。」などの意見が多数あり、合同防災キャンプで学んだことが全都立学校に共有されたと思われます。